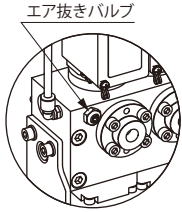
パスカルポンプ初期運転方法

**下記の手順で必ず油吸込部のエア抜きを行なってください。
エア抜きを行なわなければ作動油が吐出されません。
作動油が吐出されない状態で長時間ポンプを運転すると
内部シールが磨耗し故障します。**

ポンプ1台のエア抜きを行なう場合



① エアレギュレータを0MPaにセットしてください。

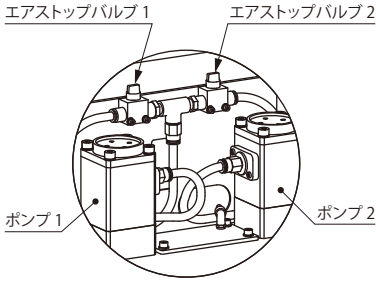
② エアレギュレータの圧力を徐々に上げ、0.1～0.15MPaでポンプが動き出した時点でエア抜きバルブを1～2回転緩めてください。エア抜きバルブが設けられていない場合は、吐出側配管の途中で配管継手を緩めてください。

注：0.1～0.15MPaでポンプが動かない場合は、動き出すまで圧力を上げた後、0.1～0.15MPaに下げてください。

③ エア抜きバルブまたは配管継手を緩めて5～30秒で、気泡が混入した作動油が出てきます。そのままポンプの運転を4～5秒続け、吐出油に気泡が無くなったことを確認した後、エア抜きバルブまたは配管継手を締めてください。

④ エア抜き終了後、エア圧を正規の圧力に設定してポンプを運転してください。

複数台のポンプのエア抜きを行なう場合



❶ ポンプが複数台ある場合、エア抜きは1台ずつ行なってください。エア抜きを行なうポンプのエアストップバルブを開き、他のエアストップバルブはすべて閉じてください。

❷ ポンプ1台の場合の作業①～③を行ない、エア抜きが完了したらエアストップバルブを閉じてください。次にエア抜きを行なうポンプのエアストップバルブを開いて順次エア抜きを行なってください。

❸ すべてのポンプのエア抜き終了後、エア圧を正規の圧力に設定してポンプを運転してください。

⚠ パスカルポンプは、ドレンの無い無給油エアでの使用を推奨します。ドレンやコンプレッサオイルがポンプ内部に混入すると、シール部に塗布されているグリスが流されて潤滑不足になり、シールが磨耗して故障の原因となります。

Pascal
パスカル株式会社